現場からの声

国境なき医師団 日本
会長
久留宮（くるみや） 隆さん

弱い立場の人々の医療を支え続ける

紛争地や自然災害地域など、緊急性の高い医療ニーズに応える国際的な民間・非営利団体である国境なき医師団。新型コロナウイルス感染症への世界的な対応を日本事務局の久留宮隆会長に聞いた。

70以上の国でパンデミックに対応

新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）のパンデミック下において、国境なき医師団（MSF）は、2021年8月までに70以上の国・地域で医療援助活動を行ってきました。医療機関における感染予防・制御に関する取り組み、専門の治療センターの設置、感染者の治療、感染予防のための健康教育などの活動を続けており、新型コロナに対応した医療機関・介護福祉施設は1761施設、入院対応件数は1万5400件、新型コロナに対する研修を受けた人数は30万人以上に上ります（2020年末時点）。

MSFでは特に、医療や衛生面で脆弱（ぜいじゃく）な環境に暮らす難民・避難民など弱い立場に置かれた人々への支援をはじめ、医療従事者の安全の確保、高齢者など重症化リスクの高い人を守る支援に力を入れています。

パンデミック当初、医療用マスクなど一部の医療関連品を確保するのが世界的に厳しい状況だった中、人道危機や紛争下のプロジェクト現場の要望に応えるため、これまで築いてきたネットワークをフル活用し、防御具や新型コロナ患者用の医薬品などの大規模調達を実現することができました。

また、2020年後半には製薬メーカー数社が新型コロナワクチン候補の有望な試験結果を発表し始めたことから、調達チームは注射器や針、廃棄ボックス、コールドチェーン機器などの予防接種に必要な医療用品を事前に確保するため、製造企業と契約を結び新しい業者の検証も行いました。それと同時にワクチンや治療薬が世界の「公共財」として公平に行き渡るよう、各国政府や国際社会にも訴えてきました。

しかしながら、それよりももっと大事なことは、新型コロナ以前から存在するさまざまな医療課題への対応の継続です。これは、途上国の人々への新型コロナ以上に重要な我々のミッションであり、コロナ禍においても継続して行っています。

世界中の寄付により支えられる活動

コロナ禍においては国境の閉鎖や移動制限など国際交通網に影響が出て、2020年前半はスタッフの派遣を人道チャーター便に頼るしかありませんでした。しかし、同年8月下旬からは徐々に利用可能な航空ルートが増え、9～12月に派遣したスタッフは2000人に増加しました。ですが、空港ごとの検疫措置や検査要件が大きな障害となり、出発の遅延、隔離中の施設宿泊料や航空券の価格上昇など、多額の追加費用が発生しています。中でもイエメンや南スーダンなどの紛争地域での新型コロナ治療施設設置や緊急医療サービスの提供には最も費用がかかります。

そうした状況下で、大変ありがたいことにMSFの「新型コロナウイルス感染症危機対応募金」に、2020年末までに日本円換算で159億2410万円が集まり、医療活動や人件費、移動・宿泊費、物流・衛生費などに割り当てることができました。

公正な分配が実効性のある対策

新型コロナの終息に向けては、世界中でのワクチン接種が大きな鍵になります。ワクチンを複数国で共同購入して公平に分配する国際的な枠組み「COVAXファシリティ」などの役割が期待されていますが、現実には一部の先進国が製薬会社に巨額の資金を投入してワクチン開発を自国民のために優先的に提供する"ワクチン・ナショナリズム"の動きが加速しています。

そうした動きが続けば、低・中所得国の人々はワクチン接種を受けられず、新型コロナの蔓延（まんえん）が続くことになります。安全で有効なワクチンや治療薬、検査などが、排他的権利の対象にならず、十分な量が生産され、公正に分配されて、最も脆弱な立場の人々にも行き渡るように国際社会が協力することこそ、新型コロナの終息に向けた実効性のある対策なのです。

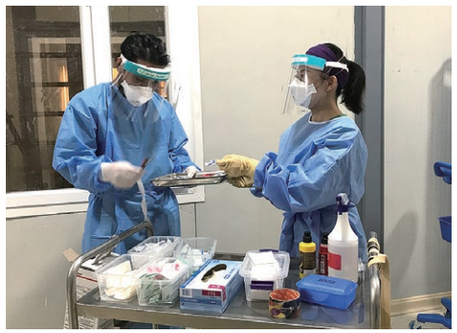
変化に対応できる人材が必要

コロナ禍をはじめ変化の激しい現在の世界で求められる人材とは、状況に応じて自分の頭で考え、臨機応変に行動できる人です。一つの事象に固執することなく変化する状況に応じて課題のポイントを考え、対処していくフレキシビリティが求められます。

またMSFでは、人道の価値観や意義を理解し、モチベーションを維持できる人を必要としています。厳しいミッションを実行していくにあたり、もちろんプロフェッショナルな専門知識と経験も必要です。調達チームや事務的な仕事をする人も含め、すべてのスタッフが状況に応じて常に自ら考え判断できることが重要です。

非常に制限された環境の中で、目の前の命を救うためにあらゆる対処法を考え、最善を尽くす現場での経験は、人の話や映像などからは得られない貴重な財産になります。

MSFの海外派遣スタッフのうち、日本から派遣する医療スタッフはまだまだ少なく、これからもっと世界に貢献できる人材を増やしたいと考えています。このような活動は楽ではありませんが、間違いなくやりがいのある仕事です。



イラク北部で現地スタッフへ薬剤準備の指導をする日本人看護師
©MSF（2020年12月16日撮影）